

OASIS HEART

あなたの心地よい透析LIFEを創るニューズレター

Action is
the foundational key
to all success.

透析医療 選択の科学IV-⑧

100点と彼は言いました。二度も。

Wake-up REAL VOICE Vol.17 前編

できることを一つずつ。

—世界に広がる夫妻の旅のつくり方

Tokyo Walk |51

日本橋 NIHONBASHI

様々な体験を写真と共に伝えるコーナー!

花火に重ねる日々の歩み

Culture

海上の鳥居大洗磯前神社

COOK BOOK file44

すだちそうめん

冷やし出汁トマト

AUGUST
2026

VOL.123



医療法人社団 Oasis Medical

Oasis Heart 編集部 医療法人社団 Oasis Medical 内

〒114-0014 東京都北区田端 1-21-8NSK ビル 4F TEL03-3823-9060 FAX03-3823-9061

* OASIS HEART に関するお問い合わせ・郵送停止希望はこちらまでご連絡ください。TEL03-3823-9060

東京新橋透析クリニック TEL03-6274-6320
<https://www.toseki.tokyo>

田端駅前クリニック TEL03-3823-9060
<https://www.tbt-toseki.jp>

透析医療

選択の科学IV-⑧

100点と彼は言いました。二度も。

先日、alba lab でライブがありました。フランスのジプシージャズを演奏するグループで、3人のギタリストで構成されます。その中の一人に透析ギタリストがいます。ジプシージャズというのはどこか不思議な陽気さがあり、悲しみを悲しみとして処理しないような音楽です。マイナーコードが鳴っても、なぜか沈まない。そういう音楽でした。私はその場にいて、まあ、ぼんやりと音楽を聴き、会場の雰囲気を感じていました。

(Oasis Medical COO 櫻堂 渉)

アーカイブがご覧いただけますのでページ末尾のQRコードから、お聞き下さい



BRIGHT JAZZ DAY BY GYPSY JAPAN Vol. 4 にてパフォーマンス中のアオシカケンイチ a.k.a. 透析ギタリスト

2部構成のライブのうち1部が終わって、司会者が透析ギタリストの彼に質問しました。

事前にイベント参加者を対象に募った質問の中からの紹介とっていました。

司会者：「質問をいただいています。これは伺っていいか迷いますが……、『セルフ透析をしながら演奏活動をするという現在の幸せ度、100点満点で何点でしょうか?』」

彼は少し間を置いて、こう答えました。

「100点です」

場内が、少し静かになった気がしました。そして間を空けず沸き上がった参加者たちの拍手。そして司会者がもう一度確認するように聞きました。すると彼はもう一度、

「透析があるからこうして音楽と共に生きられているので、そういう意味では100点です」

私はその瞬間のことを、うまく説明できません。感動した、とか、涙が出た、とか、そういう話をしたいわけではありません。そういう言葉を使うと、何か大事なものが抜け落ちる気がします。

ただ、彼は100点と言いました。二度。

人生に点数をつけること自体が正しいのかどうかわかりません。ただ、仮に今後ありたい自分を探すときに、彼のように、透析当事者が自分自身につけた「100点」が何かの参照になればいいと思っています。感動の話じゃなくて、可能性の話として。あの人が100点なら、自分も何かが変わるかもしれない、という、そのくらいの重さで……。

その言葉がなぜかずっと頭に残っています。透析を受けながら生活している人が、自分の人生を100点と言う。一度ならまだわかります。場の雰囲気に押されて、つい言ってしまうこともあります。

でも二度目は違います。二度目は、自分で確かめるように口にした言葉です。訂正する機会があって、それでも彼は同じ言葉を選びました。「100点です」

「あなたは今、何点ですか」

あえて伺います。あなたは今の生活に何点をつけるでしょうか。正直に答えてみてください。誰かに見せるわけではありません。

透析がなければ、とか、もう少し時間があれば、とか、そういう条件は一旦横に置いて、今この瞬間の自分の人生に点数をつけるとしたら、何点でしょうか。

私がこれを書いているのは、あなたを責めたいからではありません。ただ、彼の100点という言葉が、何かに対する答えのように聞こえたのです。

透析が始まると、人生を諦めなければならない。透析があるから、好きなことはできない。透析があるから、遠くには行けない。透析があるから、仕事に制限がある。透析があるから、演奏活動なんて——。彼は、数々の“できない”という「から（殻）」を、どこかで手放したのだと思います。

「生活が、透析を決める」

セルフ透析というのは、簡単に言えば、透析を自分でやるということです。時間を自分で決める。頻度を自分で決める。透析が、生活の主ではなくなる。生活に合わせて、透析を決めるようになる。

これは言葉にすると単純ですが、実際には相当なことです。週3回、1回4～5時間、病院のスケジュールに合わせて生活を組み立てている人にとって、それが逆転するというのは、世界が変わるのに近い感覚だと思います。

ミュージシャンの彼の場合、ライブがある日は、その日に合わせて透析のスケジュールを動かします。レッスンも開催します。「透析があるから無理」ではなくて、「透析も、演奏も、両方やる」という順番で彼は物事を考えています。

ただ、ここで正直に言わなければならないことがあります。

セルフ透析は、まだどこでもできるわけではありません。対応している施設は少ないですし、地域によっては選択肢すらないところもあります。だからこれは、「セルフ透析をすれば人生が100点になる」という話ではありません。そんな単純な話をしたいわけでもありません。私が言いたいのは、もう少し違うことです。

彼が100点と言えたのは、透析という条件の中で、自分の人生を自分で組み立てる余地を手に入れたからだだと思います。多くの人は透析治療に自分の希望を入れられないと感じていると思います。私は医療者ではありませんから、臨床効果とか、エビデンスとか、そういう話は他の人に任せます。ただ、生活は選択次第で変わりうる、ということは断言できます。

「顔が、違います」

自分の透析に主体的に関わっている人は、顔が違います。それは表情の話だけではなく、話し方が違います。自分の体について話すときの言葉が違います。「先生に言われたから」ではなくて、「自分で考えてこうした」という言葉で話す人は、何かが違います。うまく言えないけれど、確かに違います。

透析ギタリストの彼と、ステージを降りてから少し話しましたが、透析のことを話すときに、どこか当たり前のように話すんです。大変じゃないとは言いません。透析は、彼の生活の一部であって、彼の生活の全部ではない。

では、あなたはどのようでしょうか。

透析を受けながら、自分の人生に何点をつけていますか。60点でしょうか。40点でしょうか。それとも、振り返ること自体を、もう諦めていますか。もし今の点数が低いとしたら、その理由はどこにあるのでしょうか。透析そのものなのでしょうか。透析のスケジュールでしょうか。体の具合でしょうか。情報が足りないことでしょうか。選択肢を知らないことでしょうか。あるいは、選択肢があることを、誰も教えてくれなかったことでしょうか。そして……「透析があるから仕方ない」という言葉を、何度使ってきたでしょうか。その言葉が嘘だとは言いません。本当に仕方がないこともあります。でも、誰かに言われた「仕方ない」を、自分の「仕方ない」だと思い込んでいませんか？

彼は100点と言いました。

ジブシージャズの音がまだ残っている会場で、少し照れくさそうに、でも迷いなく、彼は100点と言いました。二度。私はその答えを、どこかに書き留めておきたかったのです。

「100点です」

二度目の言葉は、一度目より重いものです。——それだけのことです。でも、それだけのことが、ときどき人を動かします。

【アーカイブ/一部編集】

BRIGHT JAZZ DAY BY GYPSY JAPAN Vol. 4
～透析患者さんへ明るい未来を！ジブシージャズに乗せて～



profile

櫻堂 渉 さくらどう・わたる

著書『生命予後が劇的に改善するセルフ透析』

ほかOasis Medical COO、
日本薬科大学 客員教授



Message

治療の効果を最大限に高めながら、患者さんの QOL を高めたい。Oasis Medical では、透析治療のグローバルスタンダード“進化した透析”で、活力のある人生を取り戻すサポートをします。

WAKE Up

REAL VOICE

Vol.17 前編

本ニューズレター読者取材です！畑中さんは長い透析生活の中、これまでに巡った数々の海外渡航記を綴られ、この度「少しでも透析患者さんの日常に、新たな楽しみを見つけるきっかけになれば」と、本誌の取材を快く引き受けてくださいました。今回のインタビューは、畑中さんが綴ってこられたその渡航記の一冊を、Oasis Medical COO の櫻堂にお送りいただいたのがきっかけで実現しました。渡航先でのアクシデントさえも前向きに楽しむ畑中で夫妻の様子など、その飾らない旅のエピソードは、読者の皆さまの楽しい明日への一步を後押ししてくれるかもしれません。



畑中 宗憲さん 78歳 無職

1998年から透析を開始（腹膜透析・血液透析を経験）。臨時透析施設として、Oasis Medicalの透析クリニック（田端、新橋）を利用。／東京工業大学卒、工学博士。竹中工務店技術研究所主任研究員、千葉工業大学建築学科教授（2014年定年退職）。長年にわたり、地盤工学の研究・教育の第一線で活躍。（※東京工業大学は2024年10月に東京医科歯科大学と統合し、現在は「東京科学大学」に名称を変更しています。）

長年、研究者として国際会議や調査のため世界各地を訪れてきた畑中さん。1998年に透析を始めてからも仕事で海外を訪れる機会の多かった畑中さんには、海外出張をしないという選択肢はありませんでした。ただし、旅の準備は大きく変わりました。行き先を決める前に、透析が受けられる場所を探す。移動先を詰め込まず、一つの街にゆっくり滞在する。そして旅の隣にはいつも奥様（京ちゃん）がいて、透析を始めてからも、その歩みは止まることなく、お二人で幾度となく海外へ足を運んできました。

できることを一つずつ。

——世界に広がる夫妻の旅のつくり方



成都にて京ちゃんと

小田：旅の記録がたくさんありますね。これら全部ご自身で作られたのですか？！

畑中：国内のものも含めると、30～40冊くらいあります。国際会議のために海外へ行く機会が多く、研究成果を英語で発表するのも仕事の一つでした。その際に京ちゃんと一緒に巡った観光地で撮った写真を貼って、その時の出来事を小冊子に纏めてきました。

小田：透析を始めてから、海外渡航への準備などはどう変わりましたか。

畑中：まず、透析ができる病院をどう確保するかを一番に考えました。以前はインターネットで現地の施設を探し、自分で英語で連絡を入れていました。中国語を習っていた頃は、語学の先生に協力いただいたこともあります。施設から正式に「受け入れる」と確認できない限り、簡単には出発できませんから。

小田：腹膜透析をされていた頃、中国の4都市をまわったとうかがいましたが、大変だったのでは。

畑中：1日4回、透析液を交換する必要がありました。そこで事前に、宿泊する4つの都市のホテルへ透析液を届けてもらうよう手配しました。ところが、最初のホテルに着いたら、届いていない……。あの時は本当に困りました。

小田：その日は大学での講演も予定されていたとか。

畑中：そうなんです。しかも私の専門分野の話を聞きたいという学生が集まっている。こちらの事情だけで取りやめるわけにはいきません。同行した先生方が心配してくれて、講演順を調整して最初に登壇させてくれました。終わったらすぐホテルへ戻るから、ほかの先生方の話は聞けないし、もう大変でした。でも現地の大学で日本語を話せる方が、必死になって透析液の行方を探してくれました。翌日には届いて、その後は安心して過ごすことができましたので感謝しています。

小田：血液透析へ移行してから、渡航先の施設を見つけるまでに苦労があったのでは。

畑中：ヨーロッパでは、透析施設が小さなクリニックの場合も多く、看板がわかりにくい場合もありました。地図上ではすぐそばにあるはずなのに、実際には行ったり来たり何度歩いても見つからない。道行く人に尋ね、現地の人が一緒に探して連れて行ってくれたこともあります。ある大学病院では朝5時に来るよう言われ、暗いうち



西安での旅行透析の様子

に到着したものの、広い構内で透析室が見つからない。ようやく入れても、医師が来るまで3時間待ったこともありました。いろいろありましたが目的を果たして、妻と共にこうして無事に戻ってきているので結果はOKです。ただ、何が起るか分からないので、移動や観光の時間が決められたツアーは難しいですね。だからできるだけ一つの街に滞在して、ゆっくり楽しむ旅が私たちには合っています。

小田：奥様は、畑中さんが透析を受けている間、どのように過ごされたのですか。

京ちゃん：海外での透析なので、最初は衛生面も含めて、本当に心配でした。今はだいぶん慣れましたけれど。透析中は一人で街を歩き、写真を撮ったり、お昼を食べる場所を探したりしています。(笑)

畑中：終わったら「どこで昼ご飯を食べるか、見つけておいて」と頼むんです。京ちゃんは海外へ行くと、地図を見て、分かなければ自分で現地の人に聞いて、どこへでも歩いていく。私は本当に助けられています。うちの場合は二人三脚というより、二人で一人前。お互いに助け合わなければ、これほど旅は続かなかったでしょうね。

透析を旅の「制限」として見るのではなく、必要な準備を重ね、助けを借り、無理のない方法を考える。その積み重ねが、畑中さんと奥様の世界を少しずつ広げてきたことを強く感じました。

(小田：次号へ続く)



人生を楽しく豊かにしてくれる「旅」「歴史」「科学」「エンターテインメント」など多彩な情報をお届け。読者からの寄稿も歓迎します。

リスキリングという名の未来への投資

近年、「リスキリング」という言葉を耳にする機会が増えました。新しい知識やスキルを身につけることを指す言葉ですが、「転職のための勉強」や「ITスキルの習得」といったイメージを持つ方も多いのではないのでしょうか。

しかし、キャリアを重ねてきた世代にとってのリスキリングは、少し意味合いが異なるように思います。これまで積み重ねてきた経験を活かしながら、これからの人生をより豊かにするための学び。そんな視点で考えると、リスキリングはぐっと身近なものになります。

例えば、ファイナンシャルプランナー（FP）の知識です。老後資金や資産形成、相続など、自分や家族の将来設計に役立つ知識を身につけることができます。

また、コーチングやキャリア支援を学ぶ人も増えています。長年積み重ねてきた経験を次の世代に伝えることは簡単ではありませんから、人の話を聴く技術や育成の考え方を学ぶこ



とで、自身の経験をより効果的に活かせるようになるでしょう。

さらに最近では、AIやデジタルツールを学ぶ人も少なくありません。専門家になる必要はなく、文章作成や情報整理、資料づくりなど、日常業務を効率化するだけでも大きな変化があります。

こうした学びは、新しい知識を得るだけでなく、人とのつながりも広がってくれます。若い世代は最新技術やトレンドに強く、ベテラン世代には豊富な経験や判断力があります。共通の学びを持つことで世代を超えた対話が生まれ、お互いの強みを活かし合えるようになるでしょう。

いくつ歳を重ねても学びにゴールはありません。むしろ経験があるからこそ、新しい知識を自分の中に結びつけやすい時期とも言えます。

新たな肩書を得るためだけでなく、これまで歩んできた人生に新しい視点を加え、これからの人生をより自分らしく楽しむために——リスキリングという名の未来への投資を、今から始めてみてはいかがでしょうか。（宮崎）

透析お悩み解決サロン

透析治療や生活に関する不安や疑問に透析患者さんやそのご家族から寄せられた質問にOasis Medicalの看護マネージャー新治純子がお答えします！

セルフ透析で体調維持をめざして透析量を増やしたいのですが、負担額は増えますか？

2型糖尿病から血液透析になり2年が経ち、仕事をしながら透析に通っています。以前、HDP(Hemodialysis Product:適切な透析量の指標)のことを動画で知って、通院先に「透析時間の延長」と「透析回数の追加」をお願いしてみました。回数追加はダメでしたが、透析時間は延ばしてもらい、1回6時間/週3回の透析をするようになってからは透析後の体調の良さを実感してきたので、やっぱりHDPは大事だと納得しました。今後、東京への転居も考えており、セルフ透析でHDPを管理したいのですが、透析の毎月の負担額は増えるのでしょうか？

Sさん/男性/52歳/透析歴2年

透析エキスパートナース
Oasis Medical
看護マネージャー

新治純子

相談予約

03-3823-9060



セルフ透析だからといって特別な負担があるわけではありません。

セルフ透析では「透析時間の延長」と「透析回数の追加」のどちらもできるため、透析量を増やして体調を良好に保つことに繋がります。また、HDPを上げると合併症対策にも効果的です。そしてセルフ透析になっても通常の透析と負担額は変わりません。現在、収入があり毎月の医療費負担が大きいとのことですので、まずは特定疾病療養受療証の申請状況をご確認いただくことをおすすめします。東京都にお住まいの場合は、

特定疾病療養受療証に加えて、東京都の人工透析に関する医療費助成制度を利用できる場合があります。対象となる制度や自己負担額は、加入している健康保険や所得区分によって異なるため、詳しくは加入中の健康保険組合、区市町村の窓口、または医療機関にも相談窓口があればご確認ください。

(※) HDP: 十分な透析が行われているかを評価するための「透析量の指標」計算式: 1回の透析時間 × (週の透析回数) ÷ 72以上が適正とされます。

(※) Dialysis & Transplantation/Vol.40/Issue10/p431-433/(Belding H.Scribner MD, Dimitrios G.Oreopoulos MD) 2011年10月17日発行

COOK BOOK

file 44

すだちそうめん

すだちをぎゅーっと搾ってさわやかな香りと酸味が利いたすだちそうめん。
夏の暑い日にもさっぱりとおいしく食べられます。

材料〈2人分〉

素麺 2束
すだち 3個
小ネギ 2〜3本

A

めんつゆ (3倍濃縮) 70cc
冷水 120cc〜140cc

【作り方】

- すだち1個は果汁をしぼり、残り2個を1〜2mm幅の輪切りにします。
小ネギは小口切りにします。
- Aを合わせ、1の搾り汁を加えて冷やしておきます。
- たっぷりのお湯でそうめんを袋の表示通りにゆで冷水でしめ、
ざるに上げて水気をきり、器に盛って輪切りにしたすだちと小ネギ
をのせます。



【副菜】

＊ めんたい

＊ 茄子味噌

角切りにした茄子を素揚げにしてしょうゆ1：本みりん1：砂糖1：みそ1
おろししょう1/2で和える

＊ モロヘイヤのおひたし

さっと茹でたモロヘイヤはざく切りにして出汁に浸す

＊ エリンギのバター醤油

縦に薄く切ったエリンギをバターで炒めてしょうゆを少々たらす



冷やし出汁トマト

暑い日に食べたくなる冷やしトマト。まるごと出汁に漬け込んで和風に仕上げました。
トマトに染みこんだ出汁が、食べた瞬間ジュワ〜と溢れ出てきます。

一緒に楽しむ
SIDE MENU



材料〈2人分〉

トマト 中2個
三つ葉 適宜
出し汁 2カップ
薄口しょうゆ (白醤油) 大さじ1
みりん 大さじ2

【作り方】

- トマトは湯剥きします。(ヘタと反対側に十字切れ込みを入
れ10秒ほど茹でて冷水に曝し、皮をむきます)
- 密閉袋に湯剥きしたトマトを入れ、出し汁、薄口しょうゆ、
みりん、塩を加え味を整えて袋の空気を抜いて口を閉
じ、冷蔵庫で2時間〜ひと晩冷やします。
- 出し汁と一緒に器に盛り、三つ葉を飾ります。



TOKYO WALK | 51

Feature

日本橋

NIHONBASHI

時代を経て
奥行ある新しい街の朝

休日の朝、10時から始まる映画を観に、コレド室町（中央区日本橋）へと向かいました。開店前の日本橋界隈は人通りも車の往来も少なく、澄んだ空気に街の静けさが際立っていました。普段は足早に通り過ぎてしまう場所も、静かな朝には建物一つひとつの表情がよく見えます。

そんな中でもやはり目を引くのは、日本橋三越本店の重厚な外観です。堂々とした石造りの建物と正面のライオン像には、長い歴史を重ねてきた百貨店ならではの風格があります。その隣には、三井住友銀行日本橋支店が入る三井本館。花崗岩の外壁に大きな列柱が並ぶ姿は、街の歴史を支えてきた記念碑のようにも映ります。いずれも国の重要文化財であり、日本橋が商業と金融の中心であったことを建物そのものが物語っています。

一方で、周囲にはコレド室町の各館をはじめとする新しい商業施設や高層ビルが立ち並び、少し歩けば、街の名の由来となった日本橋が、今も変わらぬ存在感を持って架かっています。街並みは時代とともに変わっても、人が集まり、商いが生まれ、新たな文化を

育ててきたこの場所の価値は変わりません。

映画が始まるまでの散歩は、変わらず受け継ぐコトと、変わりながら美しさを増すコトが共存する、日本橋という街の奥行きの深さに触れた良きひと時でした。（小田）



様々な体験を写真と共に伝えるコーナー！



花火に重ねる日々の歩み

夏の夜空を彩る花火は、音、光、色が重なり合う特別な風物詩です。夜空に向かってまっすぐ立ち上り、大きく花開く瞬間には、見る人の心を引きつける力強さがあります。その光が広がるたびに美しさに魅了され、感動を覚えます。

花火は花火師たちによって一つひとつ時間を掛けて丁寧に作られますが、打ち上げは瞬間の出来事です。そんな花火をめぐる時の流れを考えていたら、自分の日々の暮らしの中の時間に思いを馳せていました。そこには体調に気を配りながら予定を立てたり、前向きな気持ちを育む時間があります。その積み重ねは、すぐに形として見えるようになるものではなく、自分らしい毎日を支える大切な力となっていくのです。花火の輝きが夜空にやさしく広がるように、私たちの日々の歩みもまた、力強い明日へとつながっているはずだ。（岡留 哲也）

海上の鳥居 大洗磯前神社

茨城県中部の太平洋に面した大洗町にある大洗磯前神社は、海沿いの県道脇の鳥居をくぐり、松などの木々でこんもりとした山の階段をのぼった先に社殿があります。山の麓には鯉が泳ぐ神池があり、その中にも鳥居が建っています。水面に映る木々と苔の緑が目には涼やかです。県道を渡り海側に降りていくと、黒っぽい磯に打ちつける波の音が大きく聞こえ、その磯に凜と建っているのが「神磯の鳥居」（写真）です。ご祭神で医療や縁結びなどの神様の大己貴命（おおなむちのみこと）が降臨した場所と伝えられています。ちょっとした運動にもなり、社叢で涼をとるのを楽しみに、お参りするものこの季節の醍醐味かもしれません。

（大友）



INFORMATION

『セルフ透析はじめました』



脳梗塞、糖尿病、腎不全、片目の失明 etc. 常に病と共に生きてきたラッパーが綴る。自身が行う「セルフ透析」の記録をまとめたノンフィクション！

著者：ダースレイダー
発行：KADOKAWA

2026年8月20日（木）発売

Oasis Medical COO 櫻堂渉が監修を務めました。

編集後記

ラッパーのダースレイダーさんによる「セルフ透析」の記録をまとめたノンフィクション『セルフ透析はじめました』が今月20日、KADOKAWAから発売されます。脳梗塞、糖尿病、腎不全、そして片目の失明。いくつもの病とともに生きてきた彼が、透析生活という新たな現実に向き合い、人生を取り戻していつているのかを綴った一冊です。弊社が監修を行い、著者による出版記念トークイベントを弊社スペース（東京都北区田端）で開催します（詳細は各種ご案内）。病気で治療が必要になっても、人生の可能性まで閉ざされたわけではありません。著者の力強い言葉は、病気と向き合う人たちの希望となり、透析を知らない人には、その暮らしや葛藤のリアルを知るきっかけとなるはずです。そして、治療があっても一人ひとりが望む生き方を諦めなくてよい社会へと、理解と選択肢が広がっていくことを願わずにはられません。読み応えたっぷりの作品です！（小田）

出版記念トークイベント

セルフ透析はじめました

ダースレイダー本人登壇・サイン入り書籍付



【東京会場 & オンライン配信】

2026. 8. 30 SUN 14:00 開演 (13:30開場)

ダースレイダー本人登壇トーク Q&A
書籍の舞台、セルフ透析施設見学

(※) 見学は東京会場参加者限定です。

本の世界を著者本人の言葉と現場で体感する日。

透析導入を先延ばしにしてきた葛藤、初めて「病人」になった実感、セルフ透析の習得に悪戦苦闘した日々。ライブを続け、家族との食卓や仕事との両立を模索してきた道のりをダースレイダーが率直に語ります。

当日会場では、セルフ透析開発者・櫻堂渉（さくらどう・わたる）との対談も予定しており、患者が治療に主体的に関わる仕組みが生まれた背景と、目指す医療の姿をひもときます。

施設見学では本の舞台となった場所をセルフ透析トレーナーがご案内。セルフ透析を支える環境と仕組みを、実際の現場で確かめられます。

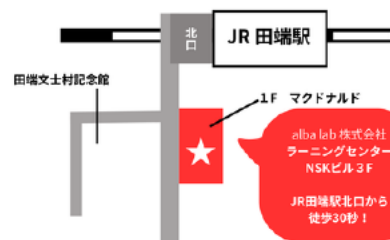
登壇・著者
ダースレイダー



ラッパー / MC / 映画監督 / 評論家/
国立民族学博物館 特別客員教員

1977年フランス・パリ生まれ。幼少期をロンドンで過ごし、東京大学在学中にラップ活動へ傾倒し中退。2000年にMICADELICのメンバーとして本格デビュー。自身のレーベルDa.Me.RecordsからKEN THE 390、環ROYらを輩出。

2010年にイベントMC中に脳梗塞で倒れ左目を失明するも復帰、眼帯をトレードマークに活動を続ける。現在は人工透析治療を受けながら精力的にライブや動画、ラジオ等で活動中。



■ 東京会場

alba lab 株式会社 ラーニングセンター

〒114-0014

東京都北区田端1-21-8 NSKビル3階

JR田端駅北口より徒歩すぐ

■ オンライン配信

Peatixサイト内「イベントに参加」ボタンより視聴

チケット申し込みはこちら



Peatix
ピーティックス

申込締切：8月16日（日）
Peatixにて事前決済

イベント終了後2週間
アーカイブ視聴可能

東京会場 (30名定員) 2,500円

オンライン (20名定員) 3,000円

※いずれも書籍（サイン有）1冊付きです。

※オンライン参加のチケット料金には、書籍の発送費も含まれます。